

■ (8) 追っかけと取り直し

23. 11. 25-2

整理部などの編集部門が、紙面を組み上げてチェックし、これ以上直しを入れる必要がないと判断し、印刷工程に回すことを「降版」といいますが、降版し印刷が始まった直後に大きなニュースが飛び込んでくるケースがあります。このような時に、新聞社はどう対応しているのでしょうか。

まず「追っかけ」といって、整理部門がニュース価値や印刷工程の進み具合などを総合的に判断し、配送中の新聞を回収せず、配送にとりかかっている地域のみを対象に、記事を書き替えて再降版して印刷する方式があります。そのニュースを読んでいない読者もいますので、次の日の夕刊や朝刊では、「一部地域既報」などと補足して再録します。

もう一つは「取り直し」で、大ニュースと判断した場合、印刷済みの新聞をすべて破棄して（配送中の新聞はトラックを引き返させることもあり）、新しく編集し直した紙面を読者に届けます。紙面に重大な間違いが発見された場合も同様です。

朝日新聞では「追っかけ」の場合は欄外の版の右に●を、「取り直し」の場合は◎を付けて、区別しています。最近では、東京本社版10月20日付け朝刊1面に「◎」が付いていました。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)